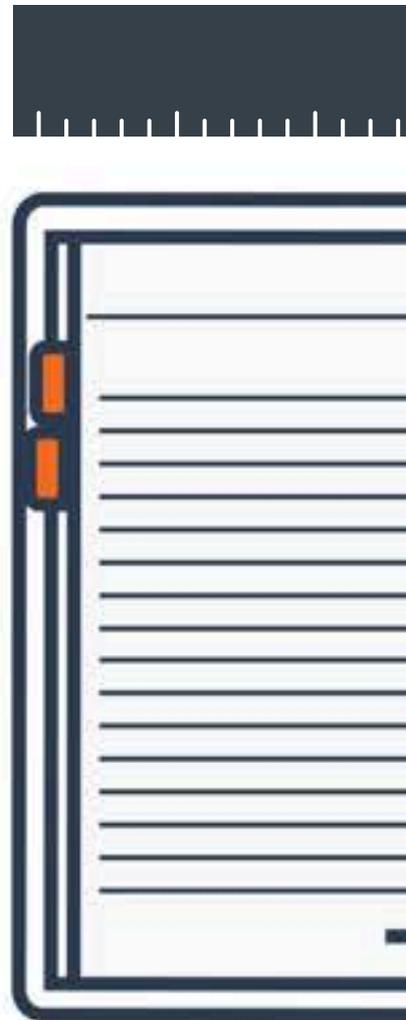


北海道地方ESD活動 支援センター 2024年度レポート



北海道地方
ESD活動支援センター
ESD Resource Center of Hokkaido, Japan



ESD (Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育)は、持続可能な未来の創り手を育む学習・教育活動として、学習指導要領に盛り込まれています。また、ESDはSDGsの達成に不可欠な実施手段にも位置付けられており、国連教育科学文化機関(UNESCO)は2019年には、新たな国際的な枠組みである「持続可能な開発のための教育:SDGs達成に向けて(SDGs for 2030)」を採択しました。これを踏まえ我が国も関係省庁が第2期ESD国内実施計画(2021年)を策定し、5つの優先行動分野を設定して進めています。

ESD活動支援センターは、ESDを推進する全国のネットワークを構築するため、環境省と文部科学省の共同提案により設置されました。地方ESD活動支援センターは2017年度に、全国8か所の地方環境パートナーシップオフィス(地方EPO)に開設され、学校教育や社会教育におけるESDを推進しています。

地方ESD活動支援センター

地方ESD活動支援センター（地方センター）は、地域のESD活動を支援・推進する「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」等との連携のもとに、「ESD推進ネットワーク」の広域的なハブ機能を果たしています。

【主な機能】

- 1 ESD活動を支援する情報共有機能
- 2 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
- 3 ESD活動のネットワーク形成機能
- 4 人材育成機能

地域ESD拠点 （地域ESD活動推進拠点）

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場のESDを支援・推進する組織・団体等の皆さまに「地域ESD拠点」として登録をいただいています。

地域ESD拠点は、地方センターのパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援することで、「ESD推進ネットワーク」において中核的な役割を果たします。登録をお考えの皆さまは、ぜひ地方センターにご相談ください。



地域ESD拠点について
(ESDセンターHP)

- 1 北海道教育大学釧路校ESD推進センター（釧路市）
- 2 北海道羅臼町教育委員会（羅臼町）
- 3 国立大雪青少年交流の家（美瑛町）
- 4 NPO法人旭川NPOサポートセンター（旭川市）
- 5 一般財団法人北海道国際交流センター（函館市）
- 6 ネイパル深川（深川市）
- 7 ネイパル北見（北見市）
- 8 ネイパル森（森町）
- 9 ネイパル厚岸（厚岸町）
- 10 ネイパル砂川（砂川市）
- 11 三笠ジオパーク（三笠市）
- 12 ネイパル足寄（足寄町）



- 13 白滝ジオパーク（遠軽町）
- 14 国立日高青少年自然の家（日高町）
- 15 NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト（浜中町）
- 16 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ（登別市）
- 17 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）
- 18 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト（余市町）
- 19 株式会社アレフ えこりん村事業部（恵庭市）
- 20 NPO法人さっぽろ自由学校「遊」（札幌市）
- 21 合同会社エゾリンク（札幌市）



北海道内の地域ESD拠点
(2025年3月現在・登録順)

地域ESD拠点 プロジェクト協力

北海道地方センターは、地域ESD拠点の活動への企画協力等を行っています。本年度の主な取り組みは以下のとおりです。

●道立青少年体験活動支援施設

(ネイパル砂川/ネイパル深川/ネイパル森/ネイパル北見/ネイパル足寄/ネイパル厚岸)

第3回道立青少年体験活動支援施設社会教育主事研修会（札幌市12/19）にて「SDGs/ESDのいまとこれから」に係る情報提供、意見交換を行いました。



●合同会社エゾリンク

エゾリンクでは体験重視・対話型の教育プログラムを考案、展開をしています。企業向けに行ったエコサイエンス体感研修（苫小牧市6/26）への参加・協力、環境に関する人材育成についてグリーンビジネスに関する人材育成を行う社団法人を交えての情報交換、その他企画支援等を行いました。



●NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト

エコビレッジとは環境負荷の少ない暮らしと住民が支え合う仕組みを実践するコミュニティです。農業体験や共同作業を通じた学生や企業等の研修受け入れや持続可能な暮らしや社会についての学習機会の提供を行っています。本年度新たに企画したエネルギー自給勉強会や企業向けwell-being研修の企画協力、開催協力等を行いました。

ESD for 2030 学び合いプロジェクト 気候変動教育

ESD推進ネットワークは、SDGs達成に向けた教育分野の取組として「ESD for 2030学び合いプロジェクト」を進めています。地方センターではそれぞれが気候変動を切り口としたESD「気候変動教育」を進めています。

●脱炭素社会の実現に不可欠な「気候変動教育」

脱炭素社会の実現には、個人のライフスタイルだけではなく、社会と経済の仕組みそのものを変える必要があります。そのためには、多くの人々が気候変動対策の必要性や可能性を理解し、変化を前向きに受け入れていくことが求められます。

学校教育においても、児童・生徒一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」となるよう、ESDの充実が期待されています。しかし国内の学校では、教科としての環境教育は実施されておらず、多くの人々がレジャーなど様々な目的で訪れる社会教育施設においても、気候変動に関する学びの機会は限られています。

●「気候変動教育」の実施拠点づくりをめざして

北海道地方センターでは「気候変動教育」の新たな拠点づくりに向けて、2023年度から札幌市円山動物園と協働で「札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト」を実施しています。

(※4~5ページ)

また、北海道内の動物園・水族館などの社会教育拠点における気候変動教育の可能性を検討するべく、ヒアリングや意見交換を進めてきました。



札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

動物園や水族館、博物館・科学館等の社会教育施設は、生物多様性の意味や地球規模の環境変化と私たちの暮らしのつながりを知る、気づきや学びの場として大きな可能性を持っています。そこで、2023年度より札幌市円山動物園と協働し、動物園での気候変動教育の可能性について検討・試行し、他園館への展開も見据えてプロジェクトを進めています。2024年度は前年度に環境教育実践者や専門家・関係機関等とワークショップを重ねて検討した結果をもとに、いくつかのプログラムを試行的に実施しました。

●気候変動・生物多様性タウンミーティングin円山動物園（全3回）

展示動物を入り口に、生息地の環境変化や気候変動などの様々な影響を知り、それらと私たちの暮らしや社会・経済との複雑なかかわりを考える対話の場として開催しました。いずれも動物園のスタッフによるテーマ動物のガイド、ゲストからの対象地域にまつわる話題提供、参加者同士の意見交換という流れで実施し、園内ガイドを含むため少人数での開催としました。

主催：札幌市円山動物園、北海道地方ESD活動支援センター
協力：特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所

アムールトラ・ユキヒョウ編～寒帯林・高山帯で何が起きているのか～

【日 時】 2024年11月3日（土）13:00～16:00

【参加者】 19人

【ガイド】 寒帯館

【ゲスト】 伊藤健次さん（写真家）
工藤菜生さん（札幌市円山動物園）

【内 容】 高山帯や寒帯林の環境、自然と共生する先住民の暮らし、人間活動や気候変動の直接間接の影響による環境変化を写真から学び、問題解決へのアプローチや動物園の役割について意見交換を行いました



アジアゾウ・オランウータン編～アジアの森と私たちの暮らし～

【日 時】 2024年11月16日（土）13:00～16:00

【参加者】 23人

【ガイド】 ゾウ舎、オランウータンとボルネオの森

【ゲスト】 八木亜紀子さん（特定非営利活動法人開発教育協会）
朝倉卓也さん（札幌市円山動物園）

【内 容】 熱帯雨林の開発と私たちの生活とのかかわりについて、パーム油を題材にワークショップを行い、エシカルな暮らし・経済の可能性について対話しました



ゴマフアザラシ・ワシ類編～気候変動と北海道の野生生物～

【日 時】 2024年11月23日（土）13:00～16:00

【参加者】 26人

【ガイド】 猛禽舎、ホッキョクグマ館

【ゲスト】 小林万里さん（東京農業大学）
長谷川理さん（EnVision環境保全事務所）
菊池晏那さん（札幌市円山動物園）

【内 容】 気候変動の影響を直接間接に受けている北海道の野生生物について知り、そこから気候変動を身近な問題ととらえての対話を行いました



●動物園における気候変動教育を考える教員ワークショップ

円山動物園での校外学習受け入れや出前授業による、気候変動を切り口とするESDの可能性を小学校の先生・円山動物園スタッフとともに考える場として開催しました。同時に、札幌市環境副教材（※）への反映も検討しました。

※札幌市は環境教育の推進を目的として市内の小中学生全員に学齢期別の副教材を配布しています。

- [日 時] 2024年8月6日（火）9:30～12:30 [場 所] 札幌市円山動物園
[メンバー] 札幌市環境副教材ワーキンググループメンバー（小学校教諭7名）、
札幌市教育委員会、札幌市環境政策課、円山動物園スタッフ
[内 容] ・円山動物園の環境教育・気候変動に関する取り組みの紹介
・園内フィールドワーク（動物園スタッフによる園内ガイド）
・学びの場としての動物園の活用と副教材への反映を検討するワークショップ



●ESD推進ネットワーク北海道地域フォーラム

「動物園・水族館と考える気候変動・生物多様性」

動物園や水族館は、生き物を通してその生息環境に思いをはせ、生物を守ることを意味や私たちの暮らしとのつながりについて、たくさんの学びやきっかけを提供してくれます。

2024年度の「ESD推進ネットワーク北海道地域フォーラム」は、その役割と可能性を伝えるべく、動物園や水族館、気候変動や生物多様性、環境教育に興味のある方を広く対象としました。北海道内の動物園・水族館の中には、その特徴を生かして気候変動や生物多様性を学んだり考えたりするような取り組み、挑戦を行っている施設もあります。

このフォーラムでは今年度の学びあいプロジェクトを報告するとともに、それらの取り組みを共有し、今後の展開や可能性について考えました。

- [日 時] 2025年3月20日（木・祝）13:00～15:15
[参加者数] 現地30人／オンライン50人
[場 所] 札幌市円山動物園およびオンライン
[講 演] 「動物園・水族館における持続可能性に向けた環境教育の役割と可能性」
松本朱実さん（社会構想大学院大学）
[パネルトーク] 進行：佐竹輝洋さん（札幌市円山動物園）
「北海道の動物園・水族館と考える気候変動・生物多様性」
・久保田学（北海道地方ESD活動支援センター）
「気候変動・生物多様性タウンミーティングin円山動物園」
・高田学さん（旭川市）
「旭山動物園の脱炭素化」
・有賀望さん（札幌市豊平川さけ科学館）
「どう伝える？
サケを取り巻く生物多様性の課題と気候変動の影響」
・工藤菜生さん（札幌市円山動物園）
「英国の動物園に見る環境教育」
意見交換
上記登壇者、飯島なつみさん（札幌市円山動物園）



ESD アドバイザー 派遣制度

北海道地方センターでは、道内の学校教育・社会教育におけるESD/SDGsの導入や実践、現場の課題解決を支援するため「ESDアドバイザー」を派遣しています。アドバイザーへの謝金及び旅費は北海道地方センターが負担します。オンラインでのご利用も可能です。

●こんなお悩みはありませんか？

「主体的・対話的で深い学び」は、どのようにすれば実現できるのか？ SDGsを学校や地域の施設での学習に取り入れるには？ 施設の事業計画とESD/SDGsとの関連は？ …
学校教育・社会教育に関係する皆さんの、SDGsの教育分野への具体的な取り入れ方等のお悩みに対応します。

●登録アドバイザー ※五十音順、所属は2024年6月現在



大津和子さん

北海道教育大学名誉教授

キーワード 主体的・対話的で深い学び /
SDGs / 国際理解教育



金澤裕司さん

前 羅臼町教育委員会 自然環境教育主幹

キーワード 自然と人間 / 地域の持続的発展 /
総合的な学習による学力向上



松田剛史さん

藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授

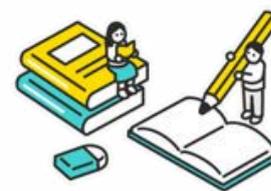
キーワード SDGs / カリキュラム・マネジメント /
PBL / 教育課程



派遣制度についてはこちら
(北海道センターHP)

●派遣制度ご利用の条件

1. 派遣の目的が道内におけるESDの導入・実践・課題解決であること
2. 主催者が非営利団体（行政機関を含む）であること
3. 助言や支援の対象がESDの実践者または関係者であること
4. 宗教・政治活動が目的ではないこと



●2024年度 派遣実践 ※申請主体 - テーマ

- ・北海道小樽高等支援学校（小樽市）
- 学校教育におけるESD×SDGs、今までの活動を踏まえた今後の方向性
- ・石狩市立花川中学校（石狩市）
- ESD/SDGsの理論と実践、教育課程への位置づけ、総合的な学習と他教科の連携方法

北海道地方ESD活動支援センター
(環境省北海道環境パートナーシップオフィス内)
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル7階
TEL 011-596-0921 FAX 011-596-0931
URL <https://hokkaido.esdcenter.jp>
発行 2025.3

